

10月20日(日)



カニホタタ丼



皆さん、こんにちは。藤永です！
今回、冬への移り変わりにちなんで私が皆様におすすめしたい丼物がこちら：カニホタタ丼!! 当店オリジナル丼で、丼物の中で上位の人気ぶり! 広告と倍増量しております! また、レモンや大葉などを加えることで見た目や味のバランスにこだわったどり着いた逸品。
増量できるのも西田鮮魚だからできる商品! 相方の長崎さんの推し丼に負けずと劣らず。この機会に是非 私の推し丼「カニホタタ丼」ご賞味下さい!

西田鮮魚店 藤永 咲也

V

日替わり丼対決

S

1パック

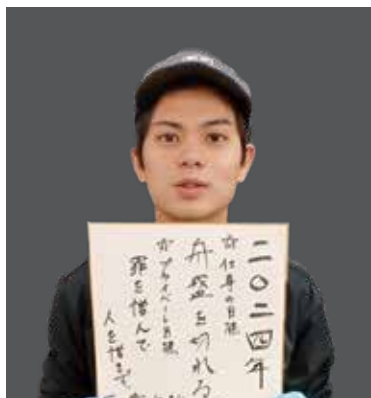
1,200円(税込)

サーモンゴロゴロ丼



1パック

1,200円(税込)



みなさんこんにちは! お久しぶりの長崎です!
4月から日替わり丼を始め、たくさんのお客様に喜んでいただいている、サーモンゴロゴロ丼をご紹介します! 日替わり丼を作り始めた時、最初に着目したのがサーモン単品の丼ぶりでした。僕はサーモンが大好きで、お寿司でも、多くのお客様から注文を頂いていることから、やはり僕と同じ、老若男女様々な方にサーモンは愛されている! と勝手に感じました。サーモンは炙ったりオニオンスライスに乗せて食べたり、漬けてみたり、様々な食べ方がある魚。しかし! 今回は皆さんに、サーモンと僕からの感謝を込めて、シンプルに倍近くの増量! ご飯からこぼれ落ちそうなインパクトに加え、オニオンスライス、ネギ、そしてイクラをトッピング。食べやすいようにゴロゴロのプロック状に切っております。みなさんぜひ食べていただき、僕と一緒にサーモン愛を感じましょう!

西田鮮魚店 長崎 大雅



西田鮮魚店

☎72-5246

『女子は元気じゃ』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



いつもなら、すぐ返ってくる折り返しの電話が、なかなか返ってこない。しばらくして、こんなメールが届いた。

「おはようございます。電話すみません。」

電波が悪い所にいるので、折り返しかけるのが、今日の午後になりそうです。申し訳ございません。」

電波が悪い所？どこ？山？彼女の日頃から、すぐに山だと思つた。たぶん山だ。いや絶対山だ。まちがいない山だ。

そうか、山なら仕方ない。メールで要件を伝えた。

何日かして会ったとき聞いた。

「どこの山に行つとったん？」

「白山です！」

(やっぱ山だった)

(ええ、白山？)

(想像を超えた。せいぜい大山くらいだと・・・)

「はい。金曜日に仕事が終わって、すぐに出て、日曜日の夜中に帰ってきました。」

こともなげに言う。

白山。名前くらいは知っているが、ウィキペディアで調べてみた。

『白山は日本の北陸地方、白山国立公園内の石川県白山市と岐阜県大野郡白川村にまたがる標高2702mの活火山。』

富士山、立山とともに日本三霊山の一つである。」とあった。石川県？遠いじゃないか。行くだけでも一仕事じゃ。それも車で…。

で、どれくらいかかる？

庄原ICからなら白山ICまで52.2キロ。所要時間6時間くらいか。でもそれは、インターチェンジからインターチェンジの距離だ。当然、そこから、山までの距離がある。

夜7時に出て白山に着いたのは午前3時だったという。8時間だ。友達と交代しながらと言つてはいたが、それにしても…。そこから山登りが待っている。元気じゃ。

到着して、少し仮眠して朝7時に登り始めたのだとか。途中の山小屋まで5時間くらい、12時ころ山小屋に着き、さらに山頂まで30分。元気じゃ。

いったん登った山頂から一度、山小屋まで下りて一泊。

翌朝、ご来光を仰ぐために、日曜日の朝5時、再び山頂へ。

ご来光が、どれほど美しかったかは聞きそびれたが、さぞ…。

そのまま下山。再び車上の人。夜11時過ぎに家に帰り着き、翌朝、何食わぬ顔で仕事に…。元気じゃ。

彼女は確か、『アラ還』のはず。元気じゃ。



女子は元気じゃ!!

そういうえば、すぐ近くにも元気な女子がいる。悦子だ。

彼女がハワイアン・フラ(フラダンスと言うと叱られる)を始めて、もう20年になる。

最初は何人かで家で踊っていたが、今は、月曜日、ジョイフルのプリンセスガーデンで、広島から先生に来てもらって稽古に励んでいる。

20年、踊っていると旦那の私が見ても、その上達ぶりがかかる。もちろん、悦子だけではない。仲間の皆さんみんなだ。なにかイベントがあれば、いや、なにかイベントを探しては出かけて踊っている。最初のころは、見に来て、ビデオを撮れと言われていたが、最近は言わなくなった。彼女にとつて日常になったのだろう。

でも、家でフラの曲が、よく流れている。大きな鏡の前でひとり稽古だ。いちばん多いのが『涙そうそう』。フラは基本、手話の振り付けだそうだが、日本人にはよくわからない。しかし、『涙そうそう』の歌詞とメロディと、そして、フラのゆつたりとした振りがぴったりと合う。

何度か、彼女たちが踊る『涙そうそう』を見て涙ぐんだことがある。酒のせいかもしれないが。

悦子は、ズンバにも顔を出している。週に1回か2回か、総合体育館に通っている。こちらは、フラほどには入り込んでいないが、これはこれで楽しいらしい。

最近、そのフラやズンバにフィットネスが加わった。私が4年前からジムに通っていることも少しは影響しているのかも知れないが、三次にフィットネスジムができたときつけて、その気になったようだ。

悦子は毎朝5時からの三次の『朝起き会』に行くので、24時間開いている、そのフィットネスジムが使いやすいようだ。『朝起き会』が6時に終わったあと、ジムに寄って軽く汗を流して帰る。それでも夏の間は、汗びっしょりになって、化粧が落ちると嘆いていたが、そう話す笑顔が輝いている。



白山に登った彼女も悦子も、毎日が楽しそうだ。いきいきしている。よく、ころころと動く。動き回る。彼女たちだけではない。彼女たちのまわりの女子たちもそうだ。

女子は元気だ。年をとるほどに軽やかになる。

たぶんだが、じつとしていないのが、いいんじゃないか。私が見立てではそうだ。元気だからじつとしていないのか、じつとしていないから元気なのか、わからないが…。

私はといえ、重くなった。体重だけの話ではない。動きが重くなった。足取りが重くなった。そして、これが一番まづいと思つているのだが、心が重くなった。

軽々と動き回る女子と。重々しくたたずむ男子。私は軽々と動き回る男子になりたい。

女子を見習おうと思う。

追記

白山の次は立山だそうだ。

2024年10月20日